

【京都府】 海岸漂着物を燃料等として再資源化する技術

課題の背景

- ・京都府における海岸漂着物の量は年間 300t 程度であり、その処理費用は約 4 千万円／年に上る。
- ・海岸漂着物の処理における課題は、海水に長時間浸されていたことにより漂着物自体が塩分を多く含んでいることに加え、多種多様な材質のごみが混在していることである。
- ・塩分を含んだ木材やプラスチックなどが混在して漂着し、コスト面で分別することも困難であるため（一部、現地住民がボランティアで行っている程度）、大半が直接埋立処理されている。しかし、埋立可能な場所も年々減少し、現在は府外へ搬出し処理している状況である。

課題のゴール

- ・塩分を多く含んだ多種多様な海岸漂着物を燃料等として再資源化することにより埋立処理量の減少、資源の循環化を図る。

求められる要件（機能要求・関連基準等）

- ・処理のために、広域な場所を要しないこと。
※運搬コスト、省スペースを考慮し、漂着したその場又は近隣で処理できることが望ましい。
- ・処理の過程で、自然界に影響を及ぼす有害な物質を排出しないこと。
- ・現在の処理費用を上回らないこと。（現状、京都府では 1 t 当たり 1 0 万円強）

協力事項

- ・実証実験のため、実際に漂着したごみを提供すること
- ・（実証効果が優良であれば）製品、技術の紹介、広報
- ・取組内容の評価